

# 吉田ゼミの紹介

(大阪公立大学 経済学部・経済学研究科)

# データからみる 世界と日本の経済・社会の本当の姿 (抜粋)

-Think from a Global & Long-term Perspective, Act Locally!-

“大局観の修得 = 社会メカニズムの理解”



“中長期的に, 効率的な意思決定へ!”

大阪府立大学 マネジメント学類・大学院経済学研究科

吉田 素教

2021

(2024 一部改訂)

# 1. 日本社会の問題

Q: 日本社会は(政治等の場において) **効率的な意思決定** **ができない**, それは何故か?

A: 日本人は(大陸の民族と比べ)「**大局観**」を持たない.  
(可能性が高い)

 (×) **定性的理論分析**  
(論理的な**因果関係分析**)  
(×) **定量的分析**  
(**因果関係の実証, 定量的将来予測等**)

[結果]

- ・ **狭・短期的視野に基づく声の大きな者の意見**が罷り通る.
- ・ **社会全体で膨大なコスト**が発生 (**負担は各国民に帰着**).

## 2. 大切なものの見方・考え方

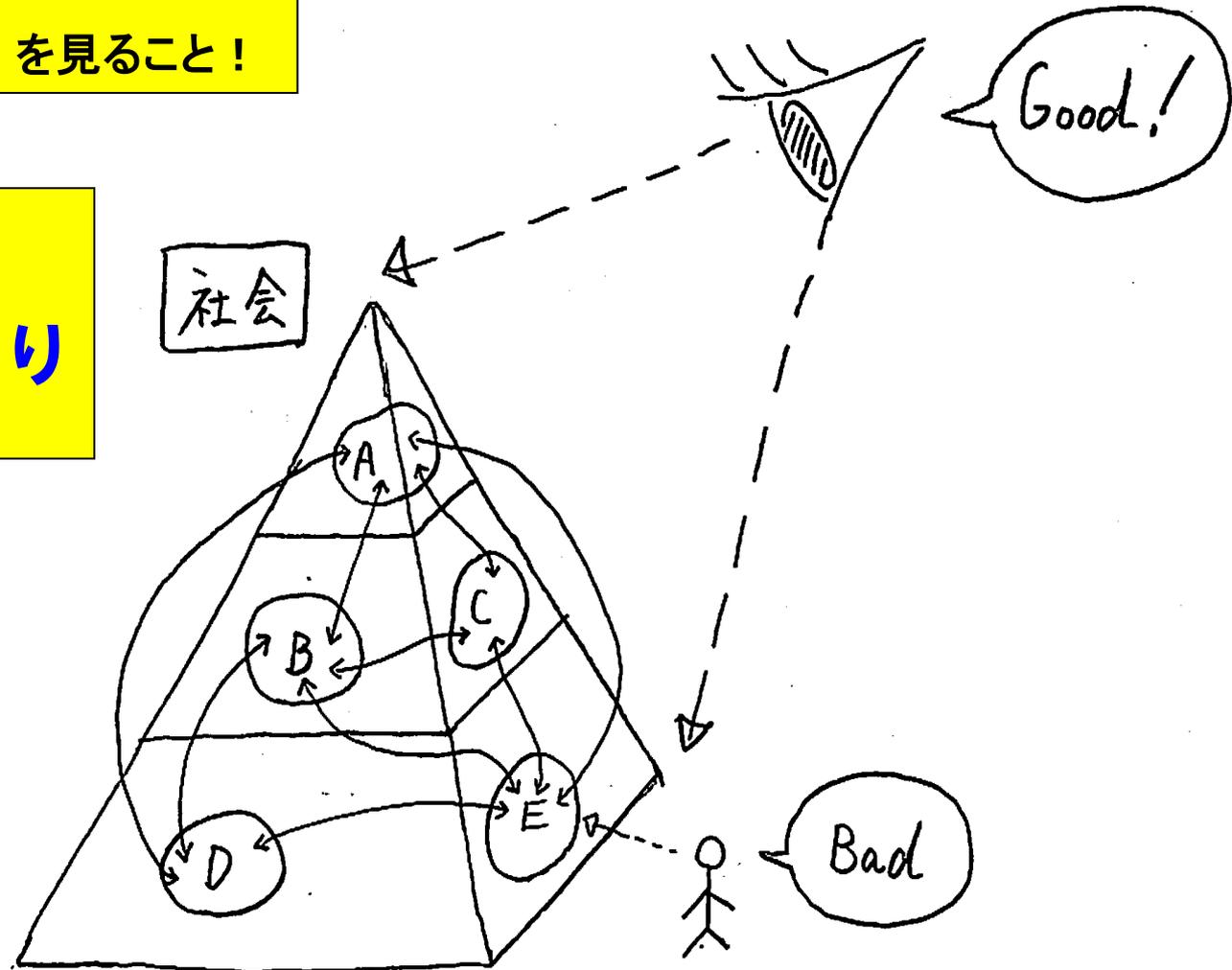
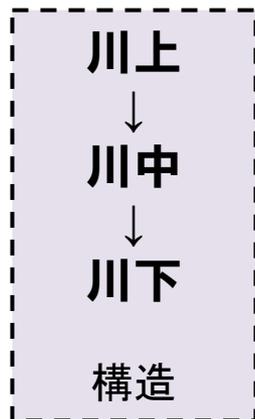
Image 1

### Point 1

まず、**一番の外枠** を見ること！

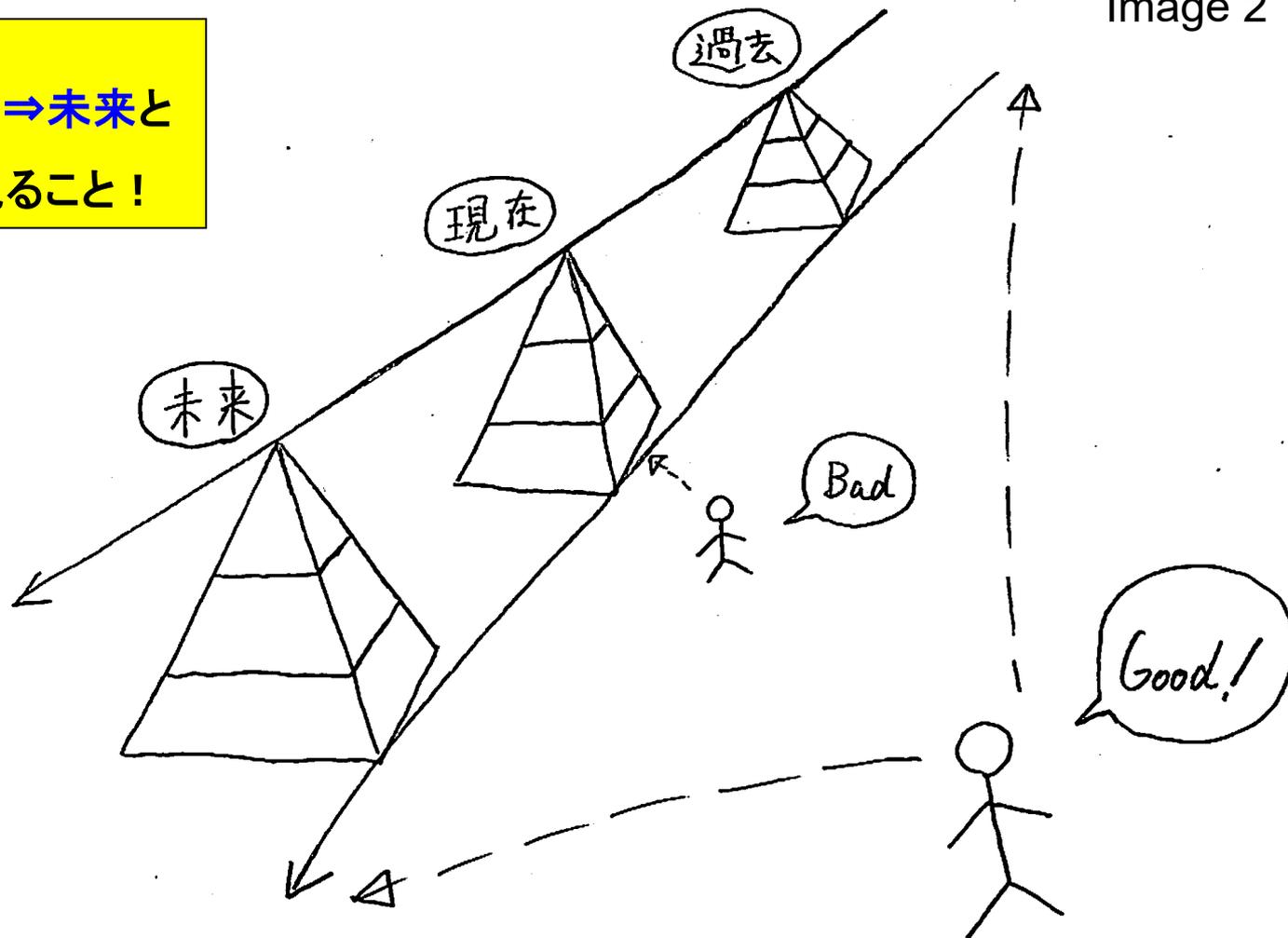
### Point 2

次に、  
**各部分のつながり**  
を見ること！



**Point 3**

次に、過去⇒現在⇒未来と

**通時的に** 見ること！

Point 1, 2, 3 を経て,

**社会メカニズム（因果関係）** が見えてくる！

※しかし、難しい……

## Point 4

最後に、社会メカニズムを踏まえて、制約条件付き最適化問題を解いて、効率的な意思決定を図る！

例) 公共財の最適供給問題(2人+2財+生産技術制約 モデル)

[仮定]

- 住民は2人.
- 個人の私的財の消費量は  $x_1, x_2$  .
- 公共財は等量消費を仮定し、その消費量は  $G$  .
- 各個人の効用関数は  $U^i(x_i, G), i=1,2$  で、狭義準凹性、2階微分可能性、各財の限界効用は正かつその逓減を仮定.
- 社会の生産技術制約は  $F(X, G)=0, X =$  私的財供給量.
- 私的財の需給均衡成立  $X = x_1 + x_2$  .  
公共財  $G$  は供給された分だけ消費 (利用) されている.

[政府の問題]



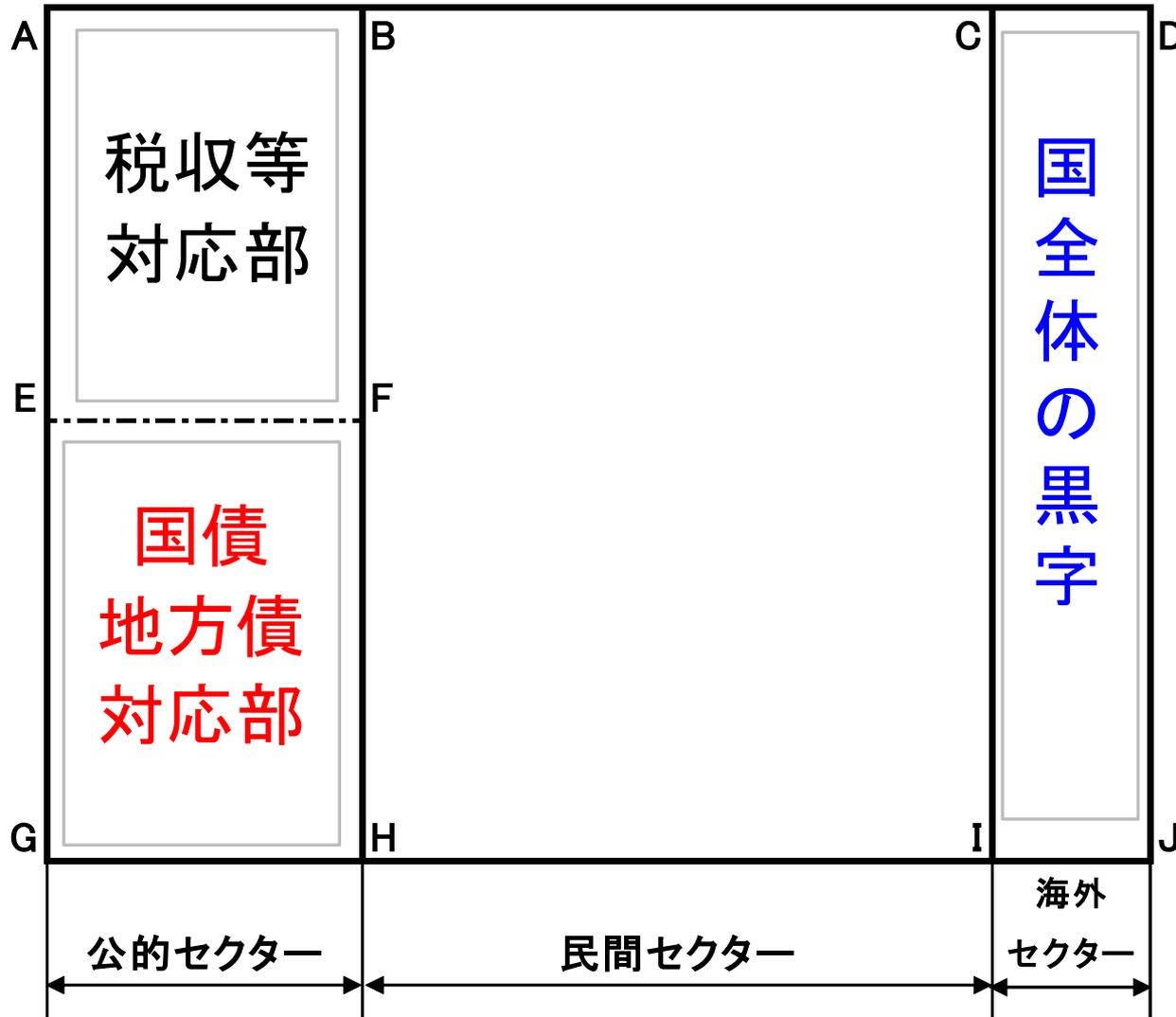
モ

デ

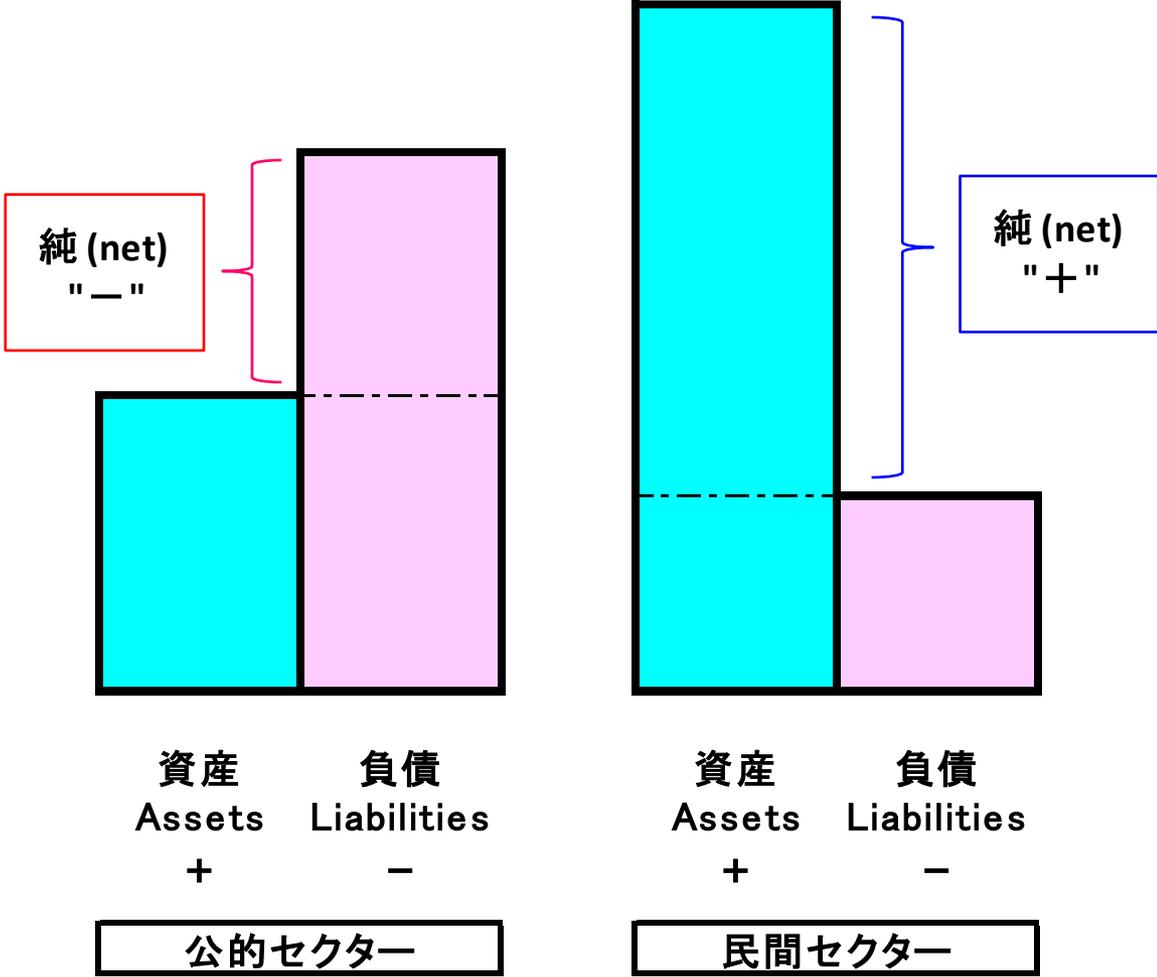
ル

# ※各国の経済力(フローとストック)

日本のフロー状況: 模式図



日本のストック(金融資産)状況: 模式図



### 3. 経済学の社会的役割

・目的:

“**経世済民** (社会厚生の最大化)”

ある価値観の下で, 広・中長期的視野における個別経済主体の効用最大化

・内容:

「**社会メカニズム**」に基づく**効率的な意思決定**を実現するためのツール(各経済主体の**インセンティブ**行動を踏まえ).

(1) 定性的理論分析(論理的分析)

**ミクロ経済学**, **マクロ経済学**, **経済史**, **経済学史** etc.

(2) 定量的分析(因果関係の実証, 定量的将来予測等)

**経済統計**, **計量経済学**, **シミュレーション** etc.